

Title	海外勤務者の子弟教育問題-国際人事管理の観点から-
Sub Title	
Author	平野吉三 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0100

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 平野吉三

主査 石田英夫 教授

副査 関本昌秀 教授

奥村昭博 助教授

所属ゼミナール 石田英夫 研

海外勤務者の子弟教育問題 — 国際人事管理の観点から —

近年企業の海外進出は急激にのび、海外勤務者も増加の一途をたどっており、これに伴い海外在留の子弟の数も激増している。

本論文では海外勤務に伴う子弟教育の問題に対し、国際人事管理の観点から接近するため、日本企業の海外勤務経験者30人をインタビュー調査した。

その結果、子弟の教育問題が私生活の中で最大の悩みとなっていること、そして中学生以上の男子は国内に残留するか、途中帰国させるのが通例であること、その理由として ① 国内の受験戦争におけるハンディキャップを軽減するため、さらに ② 子供が将来日本で生活する以上日本人としてのアイデンティティを失わないことが重要であると考えていること。そしてこの子弟教育問題が海外勤務者の生活にネガティブな影響を与えていることが確かめられた。海外勤務者の不安や悩みを軽減し、動機づけをはかっていくために国際人事管理として次のような対策が望まれる。

- ① 短期的には海外勤務者伴う子弟教育の問題の金銭的・精神的コストを補償する処遇の整備、
- ② 長期的には企業の国際化の拡大に伴い、海外で教育を受けた子弟の経験を積極的に評価し、採用の門戸を開いていくこと。

今後一層国際化する日本企業として、海外事業に有能な人材を配置するための人事処遇システム及び異質なものを許容する組織風土づくりが不可欠であろう。